

《参加者の感想》

◆東長崎中学校2年 C. A. ◆

私はゆめ体験でオランダやドイツに行けることをとても楽しみにしていました。どんなところだろう、どんな人達がいるんだろうとワクワクしていました。オランダ・ドイツどちらの国も日本とはまったく風景が違い、建物も歴史を感じるものが多かったです。ホームステイは私が一番楽しみにしてることでした。ホームステイ先の人達との顔合わせをしたとき、すぐに気付いてもらえて嬉しかったです。それからの三日間たくさんのところへ連れていってもらいました。アムステルダムやハーレムの大きな教会、風車の見学に行きました。ボートに乗ってアムステルダムの町を見て回ったりしました。その中で特に印象に残っているのは、ハーレムの大きな教会です。とても迫力がありました。大きな時計は遠くからでもよく見えました。中のオルガンも立派で、全てのものが大きく感じました。ホームステイ先での3日間はあっという間に過ぎてしまいました。この3日間はたくさんの初めてを体験することができました。別れるときはとても寂しかったです。また二人に会いたいです。

ゆめ体験のメンバーで動いたときは色々なことがあってとても印象に残っています。電車が急にキャンセルになったことは驚きました。日本ではこのようなことはないので、日本はきちんとしていると思いました。ドイツで特に印象に残っているのはレジデンツです。外観はとてもオシャレでした。庭の池でカモが泳いでいる姿はかわいかったです。中のフレスコ画は迫力がありました。天井に彫刻があるのはとても不思議に感じました。落ちてこないのがすごいと思いました。写真が撮れなかったことは残念です。

今回のゆめ体験ではシーボルトについて深く知ることができました。実際にシーボルトが持ち帰った着物や傘など日本ではほとんど残っていないものがあり、シーボルトが大切に保管していたことがよくわかりました。まだシーボルトについて知らないことが多くあります。もっとシーボルトについて知りたいです。

このゆめ体験をきっかけでもっと英語が話せるようになりたいと思うようになりました。英語が話せるようになったらまた外国へ行きたいです。そして色々な国の人達と友達になりたいと思います。とても楽しい思い出をつくることができました。貴重な体験ありがとうございました。

◆長崎大学教育学部附属中学校3年 K. O. ◆

私が今回の研修に参加しようと思ったのは、オランダやドイツの歴史や文化を学び、現地の同世代の方々が将来をどのように見据えているかなどを知り、自分の将来について考えるきっかけにしたいと思ったからです。参加が決まったときはとても嬉しくて、しっかりと勉強しようと思えました。

研修では特にホームステイが心に残っています。オランダに行く前、何度かホストファミリーとは連絡を取り合っていました。自分の英語は通じるのか、コミュニケーションはとれるのかと緊張していました。また、現地に着いて、実際に地元の同年代の人たちと

関わる中で、上手くコミュニケーションが取れなかったので、不安はとても大きかったです。しかし、ホストファミリーは温かく迎えてくれ、優しく接してくれました。ホストファミリーは日本語が上手な方だったので、オランダの歴史や文化をたくさん紹介してくれました。

自分から積極的に英語で話しかけると、皆真剣に理解しようとしてくれます。言葉の壁は大きいものですが、ジェスチャーなどを使って、とにかく伝えようとするのが大切だと身を持って体感しました。そして、オランダの人ははっきりと自分の意見を述べ、求めることも知りました。自分の意見をしっかりと持ち、はっきり言える人が世界を舞台に活躍できるのであろうと思います。

私はホームステイ中、どこに行きたいかと尋ねられた時に遠慮してしまい、自分の思ったことを言えませんでした。日本では気遣いだと捉えられますが、オランダではそうではありません。日本人からして図々しい位が丁度いいのだと思います。そこからも日本とオランダの違いを感じました。

今回の研修でオランダやドイツの歴史や文化を学ぶと共に、現地の若者の同世代たちは私たちと変わらないような夢を持っていることが分かりました。ただ、自分の意見を言えるか、言えないかでは、できることが違ってくると思います。だからオランダでは女性も活躍できる社会があるのではないのでしょうか。私もこの研修で得たことを活かし、幅広い視野を持った世界を舞台に活躍できる人間になりたいです。

◆淵中学校2年 W. O. ◆

本当に楽しい9日間でした。私の一生の思い出です。オランダでもドイツでも仁川でもたくさん思い出ができたし、たくさん学ぶことができました。私がたてていた目標の「積極的に話しかける」というのは少しできたと思います。ホストファミリーさんと少し英語で話したり、まわりの人に助けてもらいながら、店員さんやCAさんにも英語で答えることができました。ただもう1つの目標の「長崎について伝える」というのは達成できませんでした。オランダであった交流会で伝えようと思っていたけど、英語に苦戦して、自己紹介や質問することで精一杯でした。でも、ホストファミリーさんにプレゼントした日本のものはとてもよろこんでくれていたので、少しは日本、長崎について伝えることができたかなと思います。

この体験で1番印象に残っていることはホームステイです。たくさんの人と関わることができたし、たくさん文化にふれることができました。オランダの食事は、チーズやウインナーが多かったです。たくさん種類があってびっくりしました。パスタやパン、ヨーグルト、ポテト、パンケーキなどを食べました。特にパンケーキがおいしかったです。粉ざとうがかかっている、少し甘い小さなパンケーキでした。最終日には、SYABUSYABUという日本食のお店に行きました。日本とは少し違うバイキング形式でした。おすしは日本とかわらずとてもおいしかったです。うどんやステーキなどたくさん日本食を食べました。「食」という点に関しても日本とオランダはつながっているんだなと感じました。オランダにはたくさん文ぼう具や雑貨を売っている所があって、とても楽しくみてまわることができました。あと、マクドナルドやH&M、フライングタイガーなど日本でもよく見られる店があってびっくりしました。牧場で牛をみたり、ホストファミリーさん

の友達の家でバーベキューしたり海に行ったりしてとても楽しくすごすことができました。ホストファミリーさんの友達と仲よくなったり、少し話したりもして、しっかり交流できてよかったです。国立博物館でオランダについて学んだり、マーケットに行ったり、ホストファミリーさんの友達と散歩したり、とても楽しめました。学んだことをしっかり日本人たちに伝えようと思います。

今回の体験で、ドイツとオランダと日本の関わりについて知ることができました。あと、日本にはないドイツやオランダの文化にもふれることができました。学んだことを、まわりの友達や家族にしっかり伝えようと思います。もっとオランダやドイツ、世界に目を向けてもらえるようたくさんのことを私が伝えていかなければならないなと思います。私も他の国のことをもっと学びたいです。今回の反省は「日本のことを伝えられなかった」ということなので、次はもっとたくさん日本、長崎について調べてから行こうと思います。反省を生かして、これからも世界に目をむけながら生活していこうと思います。

◆長崎大学教育学部附属中学校3年 M. K. ◆

ぼくはこのゆめ体験で多くのことを学び、楽しみ、そして体験することができた。僕は海外にはアメリカ以外の国は行ったことがなかったので、ヨーロッパは初めてで、出発前日はとても緊張していると共に「どんな人々と出会えるんだろう」とワクワクもしていた。

僕がこのゆめ体験で一番思い出に残ったことはなんといってもホームステイだったと思う。二泊三日のホームステイは「少し短いなー」と最初は思っていたけれど、想像しているよりももっと短かった。ホストファミリーは僕達をととても温かく受け入れてくれて、最初は遠慮していてあまり自分からは話しかけようとは思わなかったけれど、ホストファミリーの方が日本語の本やカードを使って日本語で話しかけてきてくれたので、自分も楽しみながら英語で話すことができた。

1日目は、ホストファミリーと一緒にデン・ハーグ（ホストファミリーが住んでいる町）の観光をした。市内には古い建物や教会・美術館などが数多くあった。古い建物の中には1658年に作られた建物もあり、古い歴史がつまっているような雰囲気だった。デルフトという町の風車では、風車をまわすことで小麦粉の精製を行っていた。古くからの力を今も活用していた。

2日目は一日中自転車に乗り、市内をサイクリングした。海やオランダの町が全部ミニチュアでできているテーマパークなどにもいった。オランダの国内のほとんどは移動手段が自転車である自転車大国でもあるので、自転車のスピードがとても速くて、自転車専用道路が町中にあり、とても走りやすかった。他にもスーパーに行ったり、ごはんを作るのを手伝ったりとても良い経験にもなった。家ではそれぞれの家族の写真を見せ合ったり、ピアノをひいたりなどとても楽しく生活できた。最後に、ホストファミリーに「次は自分の力でヨーロッパに来たいと思っています。その時は絶対、デン・ハーグに来ます」と英語で伝えると泣いて喜んでくれて、とても嬉しく、「また来たい」と強く思った。

今回のゆめ体験は、他にも経験したことがとても多かったが、その中で共通的にいえるのは、「チャレンジすること」だった。外国の方に話しかけたりすることで更に良い経験をする事ができた場面が多かった。今回のゆめ体験を受けたのも1つのチャレンジだったので、1つの（1つだけじゃないが）経験を得た。これからも、ゆめ体験で学んだこと、感

じたこと、経験したこと全てを自分の中に取りこんで自分の夢を形づくりたい。

◆長崎東中学校2年 T. K. ◆

スキポール空港に着き、胸が高まるなか空港の外へ足をふみ出すと、日本とは全く違う冷たい空気を吸いました。心の底からわき上がってくるような感動とともに「ああ、ここが外国なんだ」と思いました。初めての外国で、もちろん初めての体験ばかりでささいなことに対する興味と感動が止まりませんでした。私の子どもゆめ体験はまさに「五感で体験した旅」でした。

レーダーのようにあらゆるところに視線を向けると、美しい自然や風景だけではなく、ショーウィンドウに並ぶマネキンたちの背がとてつもなく高かったり、電車や地下鉄をペットと利用できるのが当たり前だったり、夜の街はちょっと危険だったり・・・みんなが注目するところ以外にも様々な発見がありました。

たどりつく答えは同じであっても、文字で見たままの事実を吸収するより、自らの五感で感じる体験のほうが、情報が豊富でなによりオリジナリティあふれる「自分だけの発見」になるので、重みがあって大切な宝物になると思います。

私の籍は江戸町にあり、江戸町は来年のおくんちの踊町です。江戸町はオランダ船を奉納し、船の上で楽器を演奏する囃子の子供たちの衣装はオランダの民族衣装をイメージして作ってあります。私は子どもゆめ体験への参加が決まり、ぜひ本場の民族衣装を見たいと思いました。そこでホームステイ先のホストマザーにそのことについて伝えると、「本を探してみましよう」とありとあらゆる本屋さんに連れて行ってくれました。本は見つかりませんでした。私のわがままにつきあってくださりました。滞在中は優しく細やかに接してくださり、大変楽しく安心して過ごすことができました。ホストマザーだけでなく、このゆめ体験では様々な人との出会いがありました。見学先の方、ガイドの方、交流した中学生、そして8日間一緒に旅をした国際課の方、15人の仲間。この機会がなければ出会えなかったかもしれないと思うと不思議でたまりません。

私のこの旅において「たくさんのことを学び、体験するとともに、長崎について伝えたい」という目標がありました。五感で様々なことを体験し、ホームステイ先ではおくんちについて話をしたので、目標を達成できたと思います。

そして次なる目標は「この体験を多くの人に伝え、外国に興味を持ってもらうきっかけをつくること」です。ちゃんぽんフェスタや学校内での報告会に向けての準備に精一杯取り組みたいです。

色々な人に感謝の気持ちでいっぱいです。ゆめのような体験をありがとうございました。

◆長崎大学教育学部附属中学校2年 H. K. ◆

「海外の方としっかりと会話できるのだろうか。」現地研修直前、私の心の中は期待はもちろん、大きな不安もありました。でも、今となっては「楽しかった」「戻りたい」という気持ちでいっぱいです。私の一生の宝物となったこの「子どもゆめ体験」。現地研修の中で特に心に残ったことが3つあります。

1つ目はホームステイです。ホームステイは私が一番不安だったことでした。しかし、ホームステイはとても楽しく、また充実した経験でした。ホストファミリーの方はとても優しく、笑顔で話しかけてくれました。持っていった折り紙と一緒に折り鶴を折りました。ホストファミリーの家の子どもはまだ英語がしゃべれないと言っていましたが、私たちが来た時に頑張って練習してくれていました。また、「ありがとう」や「こんにちは」など日本語であいさつをしてくれました。国のことだけでなく、どんな人間でいるべきかなど人間性についても学ぶことができました。日本文化を伝え、お互いにお互いの国について知ることができた3日間でした。

2つ目はシーボルトハウスやシーボルト博物館の視察です。現地研修前、シーボルトについて詳しく学びました。でも、外国に行ってみると、私が知っていたのはまだまだ少ないことが分かりました。外国に行くことで、相手の国のことだけでなく、日本文化についても深く考えることができました。

3つ目はオランダ・ドイツの建物です。日本とは違い、全体的に色が似ている家が多かったです。普段、見ることの出来ない光景はとても輝いて見えました。

7泊9日のオランダ・ドイツ訪問は私にとって将来への財産となりました。世界から見た日本・長崎はとても小さく見えました。親元を離れ、仲間と協力し過ごすことの大切さ、これからどう自分を高めて行くべきか考え、知ることが出来ました。普段、過ごしている環境から離れ、生活することで、長崎の「良さ」を再発見することができました。この経験をこれからの生かして行きたいと思います。「子どもゆめ体験」のためにご協力くださったみなさん、本当にありがとうございました。

◆長崎東中学校2年 I. K. ◆

私がこの9日間で学んだことは、ここに書ききることができないほどたくさんあります。家族とはなれて海外に行くのは初めてだったので、出発前は楽しみに不安やきんちょうが入り混じっていました。しかし、その不安ときんちょうは、みんなと話したり、食事をしたり、トランプをして遊んだりするうちに、ゆめ体験が終わってほしくないという気持ちに変わりました。

私の1番、印象に残っていることは、ホストファミリーと過ごした3日間です。対面式ではとてもきんちょうしてしまい、ホストファミリーからの質問にうまく答えることができませんでした。それでも、家に着くまでにはラジオの音楽で盛り上がり、うちとけ合うことができました。夕食はパンケーキでした。パンケーキというと日本ではスイーツというイメージが強いため、夕食と思いませんでした。また、8時だったのに明るかったため、私とペアの子はおやつだと勘違いしてしまい、これが夕食だと知った時はおどろき、日本との食の違いを実感しました。その後、初めてカヌーに乗りました。家が川沿いに建っていたので、ホストファミリーが私たちにていねいに教えてくれました。

2日目は、オランダのまちがミニチュアになっている公園に行きました。人や家、教会、橋、レストラン、遊園地やタワー、空港までものすべてがミニサイズで高いクオリティーと迫力でした。車や電車、飛行機、遊園地のアトラクションなど動いているものもあり、何時間でも過ごせるほどでした。午後からはスーパーへ買い物に行きました。サイズ感は意外にも日本とあまり変わりませんでした。おかしはとてもカラフルでした。夕食は海

辺のレストランで食べました。それまでの食事はほとんどが甘いパンケーキだったので、ホストファミリーがおすすめしてくれたカツオのステーキがよりおいしく感じられました。家ではカヌーに夢中になり、ペアの子と2人で1時間も水の上で楽しい時間を過ごしました。

3日目はお城を見に行きました。敵にねらわれにくいようにするための工夫が多くあり、周りの庭も散策しました。夕食に、2人でちゃんぽんと皿うどんをつくりました。2人とも初めてだったので、キャベツを少し入れすぎたり、いためる順をまちがえたり、ハプニングもありましたが、ホストファミリーは喜んでくれて、初めてのお箸ではがんばってきれいに食べてくれました。長崎の味を気に入ってもらえて誇らしかったです。お別れはものすごく悲しかったけれど、本当の家族の一員になれた気がしました。

他にも多くの経験を通し、日本を忘れてオランダ・ドイツの世界にひたることができました。この貴重な経験を活かして、もっと海外に興味をもち、世界中の人とつながりをもてるように、学習、学校生活に力を入れたいです。次回、また行くことができたときに、レベルアップした発音で積極的にコミュニケーションをとれるようになりたいです。最後になりましたが、私たちをサポートしてくださった関係者の方々、本当にありがとうございました。

◆精道三川台中学校3年 M. K. ◆

僕はゆめ体験を通してたくさんのことを学びました。その中でも、旅の途中で何度も感じたことが3つあります。

1つ目は「日本の便利さ」です。これは特にオランダでのホームステイで感じたことで、大きなスーパーマーケットはたくさんあったけれど、コンビニのような寄り道できるようなお店が日本より少なく感じました。また、大きなスーパーマーケットにはトイレがなかったり何度も何度も不便だと思いました。しかし、スーパーマーケットでは、日本では考えられないくらい種類の多さにおどろきました。たとえば、飲み物のコーナーです。1つの味でも何種類ものメーカーがあり、ホストマザーに「どれがいい」と聞かれたときはとてもなやみました。

2つ目は「食文化」です。これは基本ドイツで感じたことで、「ミニサラダ」の量が多く、ミニになっていないことにびっくりしました。また、ドレッシングをかけていなかったから、生野菜を食べているように感じました。

他にも一回の食事でたくさん量がでてくるので食べきれないことが多かったですし、1つ1つの味が濃く、飲み物をずっと飲んでいました。

オランダとドイツの違いとして感じたのは、オランダは素材が原型に近いものが多く、ドイツはなにが材料なのかあまりわかりませんでした。また、オランダは照明が少なく食事でも暗いイメージしかありません。

韓国・オランダ・ドイツ・ベルギーなどいろんな国でご飯を食べて、とてもおいしいものや苦手なものもあったけれど食文化の違いを肌で感じ、日本食はどれもおいしいのでそれを新しく発見することができました。

3つ目は、「英語の大切さ」です。海外で話す共通な言葉は英語で、これからのことを考えていくと英語をマスターしていればいつ外国の方と会っても会話ができ、企業が英語を

使うときにとても便利になるから英語が大切なんだと思いました。また、ホストファミリーとの会話は英語ですから、なんとか伝えたいと思いながらジェスチャーつきでしていたけれど、聞くことも大切で会話を聞きとることがむずかしかったです。しかし、相手の国の言葉も大切だと思います。今後旅行するときは、「ありがとう」や「あいさつ」を覚えていきたいです。

◆野母崎中学校 1年 M. K. ◆

今回、子どもゆめ体験に参加して僕が一番楽しかったことは、ホストファミリーとの3日間です。なぜかという、僕はホストファミリーにたくさんの場所につれていってもらったり、たくさんおいしい物を食べさせてくれたからです。

つれていってもらった中で心に残った場所は、全て心に残っているけど、その中でミニチュアタウンがよかったと思っています。その場所はオランダの有名な場所がたくさんミニチュアになっていました。風景も再現されていたのですごいと思いました。そして、つれていってもらった中でおいしいと思ったお菓子もあります。それはポッフルチスというお菓子でとても甘かったです。

僕はこの体験で英語の実力がまだまだだなと思ったので、10月の英検に向けてたくさん勉強して3級を一発合格したいなと思いました。今後ドイツやオランダにまた行きたいのもっとドイツ・オランダについて学びたいし、ホストファミリーにも会いたいの将来行けるように勉強などをがんばるという目標ができました。なのでこの目標に向かってつき進んで行きたいです。分かったこともあります。始め、外国はこわい所かなと思っていたけど、いい人がたくさんいたので、外国のこわいイメージがなくなりました。

これから、自分もいろんな事にチャレンジしていきたいです。

◆活水中学校 3年 M. T. ◆

生活や文化が違って、オランダの人やドイツの人は、私の周りには日本人と同じように親切だった。これを感じた場面は2つありました。

1つ目は、ホームステイ先です。ホストファミリーの方は、私達がつかう部屋にウェルカムボードを手作りしてくれていた。そして、夕食にBBQをしてくれたり、オランダの文化が分かる建物やお城などを案内してくれました。案内してもらったとき、オランダ語や英語で私達が難しく困っている時に、丁寧に日本語で案内してくれた。思いやりに溢れるファミリーでした。

2つ目は、町で出会った方たちやお店の人たちです。出会った人たちは進んであいさつをしてくれたり、チーズ販売店では、大きいレプリカのチーズをもたせてもらいチーズを切っているかのような写真を撮らせてもらいました。本当に日本人だからと避けられることもなく、やさしくしてもらいとてもうれしかったです。

私はこのゆめ体験で体験したことを、学校の弁論大会でクラス代表として発表することになりました。オランダ訪問で感じたことをしっかりと発表したいです。内容はオランダのスーパーで見たフェアトレード商品のことです。日本ではあまり見かけないフェアトレ

ードについて書きました。そこでもまた、世界について未来について、考えることができました。

最後に、このゆめ体験をとおして、初めて会った人とでも楽しく活動ができ、7泊9日の旅が私のこれからの未来のすばらしい土台となりました。この土台を大切にし、私の将来へとつなげたいです。本当にすばらしい体験となりました。

◆小島中学校2年 M. N. ◆

今回のゆめ体験で私ははじめて外国に行きその土地の文化に触れました。

私が一番感動したのは、レジデンツの豪華さです。床から天井まで美しいの一言でした。たくさんの部屋があり、その装飾が階段、窓、置物の一つ一つに至るまで手がこんでいて、見ごたえがありました。この時代の人々の美に対する意識の鋭さ、技術の高さを感じました。天井のフレスコ画は今思い出しても圧倒されるばかりです。

また、オランダのライデンの町並みも印象に残っています。運河を中心としていて、それに沿って高さのそろえられた木々、街灯があり、個性豊かな建物や優雅な史跡や教会があり、とても美しかったです。家々も壁の色や出窓、屋根の形まで個性がありそれらがうまく町並みに溶けこんでいて、さすがレンブラントの生まれた町だなと思いました。

ホストファミリーとすごした時間もよい思い出となりました。一緒にイケアやチーズ専門店に行き、チーズをたくさん試食したり、大きなパンケーキをお腹いっぱい食べたりしたのがとても楽しかったです。

しかし、困ったこともありました。それは水の違いです。日本と違い、水の成分が硬水で日本のシャンプーが泡立たなかったり、ミネラルウォーターも慣れない味で日本の水が恋しくなりました。また、野菜の味やドレッシングの味が日本にない味で驚きました。それぞれの国によって文化や生活様式が違うことに気づかされました。

この研修で、オランダの中高生と交流する機会もありました。私が話したのが5人でしたが、とび級している人もいて、りゅうちょうな英語に圧倒されました。また、日本語を上手に話せるオランダの人にも会って、語学が進んでいることを感じました。

自分自身をふり返ってみると、語学や会話力のなさに改めて気づかされもっと頑張らなければならないと痛感しました。

子どもゆめ体験に参加し、外国の文化や生活など私は今までより視野を広げることができました。これからも、語学をはじめ、たくさんのことを学び、社会に貢献できる人になれるよう努力を続けていきます。

◆精道三川台中学校3年 S. N. ◆

今回の研修で、僕が印象に残っていることはオランダでのホームステイです。理由は、オランダでの生活を体験でき、思い出もたくさんつくることができたからです。ホームステイ1日目はまだコミュニケーションがうまくとれませんでした。2日目からはコミュニケーションもだいぶとれるようになりました。その日は電車でオランダの観光地をめぐる写真をとるだけでなくチーズの専門店に行き、日本では見ないチーズを発見しました。

その日の夕食はラザニアでしたが、チーズがたっぷり乗っていてとても美味しくいただきました。またその後焼プリンを食べましたが、食べる前に目の前でガスバーナーであぶるところが印象的でした。3日目は自転車で観光地をまわりました。ホストファミリーの家にある自転車は高くて足がつかなかったので駅でレンタルした自転車に乗りました。オランダは長崎と違って坂がなく、とても走りやすかったです。それでも1度だけころんでしまいました。またオランダで借りた自転車はペダルを後ろ向きに回すとブレーキがかかりました。日本にはそのような自転車はないのでブレーキがかかったときとてもおどろきました。その日は自転車でビーチまで行きました。K君のペアと合流してオランダの有名な建物や街がミニチュアの模型になっているテーマパークに行きました。模型の中には2日目に見た教会や美術館などもありました。中には動かせるものもありとても楽しい時間が過ごせました。

次にドイツで印象に残っているのはレジデントです。日本ではあまりみない豪華な装飾が多かったからです。また天井のフレスコ画は彫刻と一体になっている部分もありました。また見る位置によって見え方が変わる部分があったのでとても不思議に感じました。

今回の研修が僕の人生の中でかけがえのないものとなりました。そして今の自分の課題点も見つかりました。それは英語でのコミュニケーションを積極的にできないことです。だからこれからは英語でのコミュニケーションの機会を増やし積極的に会話できるようにしたいです。またもっと自分に力をつけて将来長崎のためにも役立てるように今回の経験をいかして勉強などをがんばっていきたいと思います。

◆長崎東中学校3年 R. H. ◆

私はこの研修を通して、本当にたくさんの事を学び、体験することができました。そして、年齢、国境を越えた多くの友人を作ることができました。

まずは、この研修を終えて学んだことについて書きます。私は、海外で英語に触れ、自分の英語の能力をのばすため、そしてヨーロッパの文化に触れたいという思いからこの研修に参加しました。研修を通して、この2つの目標を自分のできる限りの力で研修に臨むことで達成できたと思っています。特に3日間のホームステイでは、日本語がほとんど通じない状況の中で、たくさんの人と交流することにより、英語で会話する上での話のつなげ方や発音を学ぶことができました。また、オランダ・ドイツの様々な観光地や長崎とゆかりのある場所を訪れ、ヨーロッパの文化に触れることで自分の経験値を上げ、異文化への興味をさらに高めることができたと思います。

次にこの研修前と後で自分が変わったところについて述べます。私は以前にも海外でホームステイをしたことがありました。その時の私は英語でコミュニケーションを取ることに慣れておらず、ホストファミリーとの意思疎通を図ることができませんでした。そのため、外国人の方や学校のALTと話をするときにも、本当に自分の言いたいことが通じているのだろうか、私の英語は間違っていないのだろうか、と不安になり、英語を話すことが億劫になっていました。しかし、この子どもゆめ体験を通してたくさんの人と英語を使って交流することにより、だんだんと英語でコミュニケーションを取ることがとても楽しく感じるようになり、研修の後半の頃には、自分から積極的に英語を話すことができるようになりました。また、オランダのホストファミリーや中学生との交流を通して、異文化

を知ることの楽しさ、重要性を知り、今まであまり興味をもっていなかったオランダの文化についてもっと知りたいと思うようになりました。

私は今後、機会があればこの子どもゆめ体験のような外国の文化に触れ、異文化交流をすることができる事業などに積極的に参加していこうと思っています。そして、自分の可能性を広げ、日本だけではなく、世界を舞台に活躍できる人間になれるように努力を重ねていこうと思っています。

子どもゆめ体験を通して感じた外国について学ぶことの楽しさや異文化交流の重要性を忘れずに、これからも頑張っていきたいです。

◆山里中学校2年 R. H. ◆

私が今回「子どもゆめ体験」に参加することを希望した理由は、高校留学したいと考えており、そのために今まで勉強してきた力を試し、さらにこれからの道をしっかりと見守らせることでした。

この目的を1番果たすことができたのはやはりホームステイです。私がお世話になったホストファミリーは全く日本語が話せず、全て英語での会話でした。私にとって、それは良かったと思います。

自分が持って行ったお土産の説明は予想以上にホストファミリーに伝わり、とても喜んでもらうことができました。また、ホストファミリーが連れて行ってくれた場所の説明も理解できました。しかし、とても苦労したこともあり、それは買い物でした。ちゃんぽんと皿うどんを作ってごちそうするために野菜の買い出しに行ったのですが、なかなか探している野菜が伝わらず、大変でした。

生活する中で伝わらず苦労したことも多かったけれど、相手に伝わって会話できたときはとても嬉しかったです。そして、もっと伝えたい、という気持ちが芽ばえてきました。伝わったときの嬉しさを忘れず、これからもっと英語の勉強をしていきたいと思っています。

私はもう1つ心に残った場所があります。それは「ランダスガーデンショー」です。ヨーロッパにしかないようなアイデアとデザインで地球の問題に対策をとっているところが心に残っています。「植物の壁」や植物と生活用品などを使い、「生活」をテーマにデザインされたかざりなど、とてもユニークだと思いました。

日本にはこのような施設も、このような発想もないので、すばらしい考えだと思いました。日本も地球問題の対策に取り組むべきだと思います。進んだヨーロッパの施設を見て、考えを学べて良かったです。

私はあっという間に中学3年生になり、受験をむかえます。目標である高校留学ができるよう、今まで以上に英語の勉強にはげみたいです。

◆岩屋中学校3年 H. H. ◆

長いようで短い、とても濃い時間を過ごすことができました。初めてがあふれている外国にテンションがあがりっぱなしの1週間でした。

1番の思い出はホームステイです。生活習慣や食事など、日本とはちがう外国の日常を

肌で感じることができました。オランダは涼しいこと、自転車がたくさん走っていること、古くからの教会や建物がたくさんあること。たくさんの違いのなかでも、ホームステイだけでなく向こうに行って感じたのは、日本人のひかえめさです。外国人は、全く知らない人とも親しげに会話を楽しむし、自己主張が強いです。はじめはとまどい、英語もうまく話せないなかで不安でしたが、徐々に外国の空気になれていって、ジェスチャーなどをたくさんつかってコミュニケーションをとることができました。外国の方は明るい人が多く、自分の片言の英語も理解しようとしてくれました。ひかえめで相手をたてるところは、日本人のよさの1つだと思いますが、自分をオープンにして、自己主張することも時には必要で大事なことだと感じました。

また、日本を1週間離れたことによって、外国の文化にふれるとともに、今まで当たり前前に思っていた日本のよさを再発見することができました。1番は食事です。ドイツ・オランダの食事もパンやチーズなどとてもおいしかったです。だんだんと日本の味、お母さんの味が恋しくなっていました。オランダで日本食のお店を見つけたときは少しうれしかったです。

外国では貴重品を肌身離さずもっていなければ危険です。電車がなくなったことがありました。飛行機はおりるときにゴミが散乱していました。赤信号を平気にわたる人がいました。このようなことから、日本人のマナーのよさを感じ、日本に誇りをもつことができました。

今回、子どもゆめ体験に参加させてもらい、様々なことを経験できました。1つ確実に言えることは、この研修を通して、自分の視野を広げることができたということです。「視野を広くもて」と部活動のこもんの先生に言われ続けてきました。それは、部活動でも、生きていくうえでも大切なことだと思います。私は、外国に興味がありましたが、将来の夢が明白に決まっておらず、未来についてばくぜんとしたイメージしかもっていませんでした。でも今回、はじめて日本をとびだし、非現実的な世界に行って、まだまだ迷っててもいいかなと思うことができました。無理にあせったりせずに、視野を広くもって自分のやりたいことを探していこうと思います。その選択肢が広がるように、勉強、特に現地の本物の英語にふれて、まだまだだと思ったので、英語に力を入れていきたいと思います。

外国のまちなみや文化、食事を楽しみ、日本のよさを伝え、日本のよさを再発見できた。そして、ひとまわり大きくなって帰ってくることができた。そんな1週間でした。きっと、これからの人生に大きな影響を与えてくれると思います。貴重な経験をありがとうございました。

◆西浦上中学校1年 Y. M. ◆

私は、この子どもゆめ体験で、貴重な体験を通じてたくさんの思い出を作ることができました。

ホームステイでは、ホームステイ先のお父さんが対面式の際に日本語で一生懸命に自己紹介してくれたことがとても嬉しかったです。家では、「何か手伝いましょうか」などと英語で積極的に話しかけ、現地の伝統的な料理であるパンケーキやパスタと一緒に作りました。オランダでは、昼食と夕食の後に必ずケーキと紅茶をセットで食べるのが日常のようでホームステイ先では常にお腹いっぱいになりました。また、アムステルダムの国立美

術館やミッフィーミュージアムなどにも連れて行ってくれたので、フェルメールやレンブラントの絵、そしてディック・ブルーナさんのアトリエも見ることができてとても嬉しかったです。他にも、お抹茶と茶筌を持っていき、私が習っていた日本文化である茶道をホストファミリーに披露したところ、とても喜んでくれました。そして、日本のお菓子であるどら焼きや金平糖、おせんべいをプレゼントしました。また、始めは現地の人々の発音が上手に聞きとれませんでした。後半は相手の言っていることが少しずつ聞きとれるようになりました。そして、自分から店員さんに話しかけることができました。

また、マリエンベルク要塞から見たヴェルツブルクの景色が美しく、とても感動しました。ゼンケンベルク自然博物館では生まれて初めて恐竜の化石を見ることができ、とても大きくて、聞いたことのない種類が多くおどろきました。

今回、この体験に参加したことでさらに、英語を話せるようになりたい、そして、将来外国で働きたいという思いが強くなりました。また、帰国してからホームステイ先のムライインさんから次は長崎で会おうとメールが来たことがすごくうれしかったです。一緒に過ごした仲間とも家族のように仲良くなり、私の中で一生の思い出をつくることができました。今回はこのような貴重な体験をさせて下さり、本当にありがとうございました。